

# 募集 7月9日(日)鳥取方面へ親睦研修旅行 おさそいあわせ参加を!!



校区の皆さまが集い 親睦をはかり 見聞を広め、1日を楽しく  
過ごしていただくよう親睦研修バス旅行を計画しました。 全但バス利用  
お誘い合わせご参加くださいますようご案内します。 [自治振興部会]

〔と き〕 7月9日(日) 8時出発(5分前集合) 19時20分帰着  
〔参加費〕 3,000円(食事代、入館料等)当日集金 [募集人数] 40名  
〔申込み〕 6月22日(木)までにであいの里へ、但し、定員になり次第締切ります。  
Tel 667-8020

〔行先・行程〕 鳥取県  
であいの里 8:00 ⇒ 海と大地の自然館 9:10~10:00 ⇒ 砂の美術館 10:20~11:10 ⇒  
賀露港にて昼食 11:30~12:30 ⇒ 燕趙園(雑技ショー見学・庭園散策) 13:10~14:30 ⇒  
倉吉白壁土蔵散策 14:50~15:50 ⇒ 元帥酒造製造場(見学・試飲・お買物)16:00~16:40  
⇒ 道の駅きなんせ 17:55~18:10 ⇒ であいの里 19:20  
(時間は多少変更する場合があります。)



砂の美術館  
過去の展示の様子

## 砂の美術館

第10期 今期のテーマ「砂で世界旅行・アメリカ編」  
毎年、海外各国から砂像彫刻家を招き、世界最高レベルの砂像を展示しています。  
永遠に残らないがゆえの美しさが大きな魅力の一つです。作品の精巧さや迫力、砂像の持つストーリーを感じながら鑑賞するとより魅力的です。

## 海と大地の自然館

3D映像上映「大地と海の物語」 9:30~9:50  
臨場感あふれる 3D映像は大迫力!鳥取砂丘や海岸の美しい景観や悠久の歴史、いきものが紹介されます。

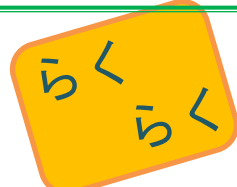
## 加工品販売のお知らせ

毎月第1土曜日、であいの里にて  
今年度の新しい試みとして、地域のみなさまにご利用いただきやすいように、毎月1回、第1土曜日にであいの里において、加工品販売を行うことにしました。詳しくは別に配付するチラシでお知らせします。(後日各戸配付予定)  
\*あん餅、さんしょ大福、<sup>ひ</sup>麩まんじゅう漬物セットなど、お祝い事などの行事やおみやげにご利用ください。  
[加工部会]

裏面もご覧ください。

## きゅうりの集荷を始めます

今年も漬物用のきゅうりを集荷します。大きくならないうちに収穫してたくさん出荷してください。  
集荷日：毎週 月・水・金曜日 午前中  
1kgあたり 140円としますが、大きくなりすぎている場合は考慮させていただく場合があります。  
よろしくお祈いします。  
[加工部会]



# 体力測定会

[健康福祉部会]

体力に自信のある方も、ない方も、まず、自分の体力年齢を認識してみましよう。そして、これからの行動や生活習慣を少しでも改善する指針にましよう! 養父市保健師がやさしく指導します。  
昨年測定した方は比較ができます。

やっぷー健康ポイント  
**3ポイント**  
カード持参してね

〔と き〕 7月1日(土) 午後1時30分~4時  
〔ところ〕 出合コミュニティスポーツセンター 体育館 (であいの里)  
〔申込み〕 6月22日(木)までにであいの里に連絡(住所、氏名、性別、生年月日、Tel)当日でも受付けますが、なるべく期限に申し込んでください。  
体力年齢算出のため事前に情報入力します。 Tel 667-8020  
〔持ち物〕 タオル、のみもの、体育館用スポーツシューズ(すべらないもの)、やっぷーポイントカード、メガネ(必要な方)



測定項目

### 〔小学生~64歳〕

- 握力
- 上体おこし
- 長座体前屈
- 立幅とび
- 反復横とび
- 20mシャトルラン

### 〔65歳以上：シニアの部〕

- 握力
- 上体おこし
- 長座体前屈
- 開眼片足立ち
- 10m障害物歩行
- 6分間歩行

## 大切な人の命を救うために 年に1回は受けましょう!

# 「心肺蘇生法&AED講習会」

人が倒れた!  
呼吸が止まっているか!  
いち早く何とかしなければ! どうしたらいいの?  
救急車が到着するまでに15分~25分かかります。  
こんな状況に遭ったとき、あなたはどうしますか?

いつ、どこで、こんな状況に出あっても適切な行動が大切です。専門的な処置は難しくても、年に一度の講習で人の命を救うことができます。  
ぜひ、講習会に参加してください。 [環境安全部会]

〔と き〕 6月24日(土) 夜 7時30分~9時  
〔ところ〕 出合コミュニティスポーツセンター 体育館  
〔内容〕 心肺蘇生法、AEDの使用方法 ほか



〔講師〕 養父消防署職員